



ダナン港改良事業

## 所長メッセージ(第7回)

### 「賢材国家之元氣」

文廟にあるこの石碑の言葉、皆さんはご存知でしょうか(最奥の建物の壁に掲げられています)。優秀な人材すなわち元気が増えれば国家は勢い増し、人材が貧しくなれば、国家も停滞する、だから人材育成が重要だというのは、ベトナムの「独立と自由」、国づくりを支えてきた精神を象徴する言葉だと思います。同時に、このベトナムの人材育成を支援してきた JICA のためにある言葉とも言えるでしょう。



1994年、訪越した村山首相は、歓迎晩餐会のスピーチで当時ベトナムで人気だった「おしん」とこの石碑の言葉に言及しながら、日本の協力を述べてくれました。(92年末から、私は大使館の書記官として再開直後のODAを担当していました)

『空港からの道すがら、あるいは公式行事からの行き帰りに、生き生きとした目で、汗を流して国造りに励んでおられるヴィエトナムの方々の姿に深い感銘を受けました。今、貴国では、「おしん」が、テレビで全国放映されて、人気を得ていると聞いております。私を含めて、同世代の日本国民にとって、「おしん」は国造りに励んだ昔の労苦の日々を思い出させるドラマであります。「おしん」世代の人々が、日本の戦後復興、経済発展を支えたといっても、過言ではありません。』

『貴国の発展の為には、海外からの資金や技術の導入に加え、優れた人材を養成することが必要であります。ハノイ市内にある文廟には「賢材は国家の元氣なり」と記した石碑が残っていると伺っております。その言葉に象徴されるように、国家建設に当たっての人造りの重要性は、申すまでもなく、日本はこの分野でも協力をすすめていきたいと考えます。』(1994年8月25日)

村山首相の風貌とともに優しい言葉で心に残るスピーチでした。あれから16年、時は経てベトナムが中所得国入りした今、「おしん」の苦労に触れる人はいませんが、日本は、村山首相の言葉通り、人材育成を重視した協力を展開してきました。その成果は日本の資金協力で完成した道路、橋、港、発電所など、インフラが発揮する効果ようには目に見えにくいものですが、ベトナムの成長、すなわち「元氣」を支える人々の活躍のために着実に生かされてきたと思います。

そして今、進行中の新5カ年計画・10カ年戦略の策定作業においても、日本の成長過程の経験に高い関心が寄せられています。JICA 事務所では、社会科学院(VASS)の要請を踏まえ、長期戦略の主な起草メンバーを日本に招聘し、日本側有識者との意見交換の機会を設けています。ハノイでも、環境省、農業省、国家銀行等へのアドバイザー専門家を通じ、また、各地で展開している技術協力プロジェクトの現場で、日々地道な技術移転が進展しているものと思います。また、これは円借款事業の現場でも同じく、日本コントラクターの皆さんの高い技術力と奮闘努力の姿勢は、ベトナム人カウンターパートのよい模範となっています。

「賢材国家之元氣」・・・先日訪越された仙谷国家戦略担当大臣(現官房長官)にも、この石碑の写真と村山総理スピーチをお渡ししました。日本も元気をもらうパートナーとしての協力、日本政府の成長戦略の柱、その橋渡し役となれるよう、JICA 事務所も頑張りしたいと思います。

(ベトナム事務所長 築野元則)

## 今月の主なトピック

### 1) 気候変動対策プログラムローンのテクニカル会合

5月18日～26日、気候変動対策プログラムローン(SP-RCC)2年目の最初のテクニカル会合が開催されました。昨年合意したポリシー・マトリックスの進捗を確認し、重要な政策アクションについては、その中身について活発な議論・意見交換を行いました。

### 2) 「ホーチミン工科大学地域連携機能強化プロジェクト(フェーズ 2)」の JCC ミーティング

プロジェクトが開始して約1年が経過したところで、去る5月27日に第2回目のJCCが開催されました。ホーチミン工科大学における研究中心教育の進捗を確認するとともに、第一年次に5つの省(ラムドン、ドンナイ、ビンズオン、テンザン、アンザン)のニーズに基づいて取り組まれた12つの共同研究に引き続き、第2年次で取り組む新たな共同研究テーマが発表されました。

### 3) 「農業生産性向上のための参加型水管理推進プロジェクト」成果発表会



2005年6月から始まった本プロジェクトがいよいよ6月一杯で終わりを迎えます。本プロジェクトでは、農民のリーダー及び水利技術者の能力向上を通じて、農民参加による水管理が推進され、収量・コストの両面で農業生産性を向上することを目的としております。モデルサイトをハイズン省(2箇所)とクアンニン省(1箇所)に設け、C/Pである国立水利研究所を中心として、地方政府、灌漑公社、農業組合、農家が参加型で配水や施設管理にかかる改善計画を協議し、水管理機能の能力向上を図りました。その結果、下流への水量増大、収量の増加、水管理にかかる労働力の大幅な節減、ポンプ時間の減少といった目に見える成果が出ました。

今回の成果発表会では、北部17省の農業農村開発局の局長/次長を始めとする水管理関係者が総勢28名参加し、モデルサイトの農業組合長や地方政府の農業担当者より、各モデルサイトでの成果を発表し、その後意見交換を行いました。各省からは、参加型水管理手法を是非導入したいという声が多く寄せられ、今後第2フェーズにより、同手法の全国展開を支援する予定です。

### 4) 「一村一品国際セミナー」ハノイ大会に向け (於:大分県)



今年11月にハノイ首都1000年に合わせてハノイで一村一品国際セミナーが開催される予定です。本セミナーは大分一村一品推進協会及びベトナム農業農村開発省(MARD)が共催し、JICAも一部支援する予定です。このセミナーでは、平松元大分県知事を中心に世界中に展開している一村一品運動の理念をベトナムの地域格差の是正に有

効なアプローチとして展開されることが期待されています。

本セミナー準備のため5月24日～29日の期間で事務局を務めるMARDの行政官を大分県に派遣し、大分一村一品推進協会とセミナーの具体的なテーマ、講師、参加者、予算等について協議するとともに、大分県が推進している一村一品運動の現状視察を行いました。

#### 5) Transport Partnership Group Meeting

5月24日、JICA及び交通運輸省の共同開催により、運輸交通セクターにおけるドナーミーティング(Transport Partnership Group Meeting)が行われました。交通運輸省による運輸交通セクターの第5次5年開発計画発表の他、世銀、ADB、KEXIM、JICAそれぞれの支援方針が発表されました。本ミーティングを通じて、交通安全分野において制度、政策の整備に進展が見られました。

#### 6) 高速道路を始め運輸交通分野での現状調査を実施中

「持続可能な交通開発戦略策定調査(VITRANSS2調査)」の結果を踏まえ、運輸交通セクターでは高速道路管理体制の枠組み、道路維持管理基金のあり方、道路維持管理技術の現状等を調べ始めたと同時に、高速道路・港湾・既存鉄道で優先度が高い事業に関するPre-FS、FS等のレビューを行っています。今回の調査結果は概ね今年度内に発表されます。

#### 7) ボランティア関連



5月16日(土)、持田泰子JVが配属するハノイ・チルドレンパレスにて日本文化紹介を通して日本クラスの промоーションを行うイベントが行われました。小中学生による盆踊りの披露、ブース毎に別れてのコマ回し、タルマ落とし、習字、折り紙体験等を他の教育関係ボランティアやハノイ在住のボランティアがサポートを得て実施しました。大使館、VJCC、および JICA 事務所スタッフも参加し、子供達と一緒に日本の伝統的な遊びに興じました。

### 新規案件紹介

#### 1) 2010年度前期の円借款2件のL/A調印

5月27日、JICAベトナム事務所築野所長とベトナム財務省チャン・スアン・ハー次官との間で総額183億8,800万円(計2件)を限度とする円借款貸付契約(L/A)が調印されました。ホーチミン市での都市問題に対処するため、下水・排水システムの整備(ホーチミン市水環境改善事業(III))、東西に横断の幹線道路建設及びトンネル建設(サイゴン東西ハイウェイ建設事業(V))を支援します。



#### 2) 技術協力プロジェクト「農産物の生産体制および制度運営能力向上プロジェクト」(5月21日、R/D署名)

ベトナムでは、農産物生産の拡大に伴い、農薬や化学肥料等の使用量も増大しており、農産物への残留や微生物による汚染などへの懸



念から、農産物の安全性の低さが問題となっております。ベトナム政府は、農産物の安全性の重要性を認識しているものの、安全性の向上には、生産技術のみならず、加工、流通過程での取り組みが必要となる他、土壌、水、大気、農作物の検査体制の確立など幅広い対策が求められることから、十分な成果をあげられていない状況です。

本プロジェクトでは、安全作物生産にかかるベトナム政府の取り組みへの支援として、政府機関安全作物担当者の安全作物生産技術にかかる農民への指導能力の向上や、政府機関安全作物担当者および農民の安全作物に関する意識向上を支援することにより、安全作物生産に関する普及活動の改善を通じて、農薬を適正に使用する農民が増える等の効果の向上が期待されています。

#### 3) 技術協力プロジェクト「保健医療従事者の質の改善プロジェクト」(5月31日、R/D署名)

ベトナムの保健指標は年々改善されている一方、こうした改善は主に都市部を中心に進んでおり、地方では施設・機材が十分でないことに加え、医療従事者の知識・経験不足などもあり、医療サービスの質に地域格差がみられます。本プロジェクトでは、医療サービス分野の人材育成に係る政策・制度改善を支援するとともに、北部・中部・南部を代表する中核病院であるバックマイ病院、フエ中央病院、チョーライ病院等を拠点として、主に省病院の医療従事者の人材育成を強化し、全国の医療サービスの質の向上を図ることが期待されています。今年7月から5年間の予定で開始します。



#### 4) 技術協力プロジェクト「北西部水源地域における持続可能な森林経営プロジェクト」(5月28日、R/D署名)

ベトナム北西部の森林は、その経済的価値はもちろん、水源涵養、土砂流出や洪水の抑制、炭素固定、レクリエーションなど、様々な機能を有しています。これらの多機能を守り、将来世代に亘って育てていくこと。一見誰もが賛成しそうな目標ですが、いざ実行するのは容易ではありません。そこには人々の生計、利害、習慣といった要素が絡み合い、「あちらを立てればこちらが立たず」な状況に陥りがちだからです。従来の「規制型」ではなく、「参加型」の森林管理を促すことで、森林保全と人々の生計向上の両立を目指さないか。ディエンビエン省で初の JICA 森林プロジェクトの挑戦が始まります。

